

生徒と保護者と先生の共育ニュースレター

# Growing

June 2015  
Vol. 34  
毎月10日発行

【今福教室】 城東区今福西 2-9-20 TEL.06-6934-4662	【今福第2教室】 城東区今福西 2-16-8 TEL.06-6931-2000
【諸口教室】 鶴見区諸口 4-14-9-1F TEL.06-6912-3984	【関目教室】 城東区関目 4-6-17-2F・3F TEL.06-6934-8117
【今津教室】 鶴見区今津南 1-6-2-1F TEL.06-6167-9722	【古市教室】 城東区古市 3-21-8 TEL.06-6931-0467



## 大切にしたい、子供達の持つ「子供力」。

塾長：高木 先生

もうすっかり日差しが強くなり、いよいよ夏の到来を感じられるようになりました。

**中村草田男 「万緑の中や吾子の歯生え初むる」**

夏の暑さと共に、自然の生命力がたく強くなり、それと呼応するかのように子供達の元気も勢いを増してくる。暑くなってくると思い出す一句です。

塾の教室もまさに同じ、教室というか塾の建物子供達の元気が満ちています。

明治大学の斎藤孝先生の著書中で、この子供達の元気と好奇心に満ちたエネルギーを「子供力」と呼び、学ぶ力を伸ばす秘訣は、子供が持っている「子供力」を十分に発揮させ「学んでいることが遊びになり、遊んでいることが学びになる」図式を学ばせることだと述べています。

実は、子供達には元来、強い好奇心や探求心があり、それに対して行動する力もある。後の記事にも出てきますが、遠足に行った時の子供達のエネルギーがまさにそれでした。

ゴールデンウィーク中、手にした本「子どもが「読書」に夢中になる魔法の授業」(ドナリン・ミラー 著 かんき出版)は、そんな子供力を発揮させ、読書という学びを遊びにさせた好例だと言えます。

本が大好きな作者のドリーはアメリカ公立小学校の教師。ある日、自分の国語の授業に「意味があるのか」という疑問を持ちます。そして、「自分の力で文章を読んだときに、初めて読解力は自分のものになる」という結論に達し、国語の授業を好きな本を読む時間に変えてしまいます。

この本の中には、子供達を読書好きにするすべてが書いてあると言っても過言ではないと思います。もちろん、そこには、彼女の本に対する造詣の深さや、子供達に本を勧める際の抜群のユーモアなど、誰がやっても容易にできるとは言いきれない面もあります。

しかし、私たち塾ももちろんですが、ご家庭でも是非挑戦していただきたいと思う内容の本です。

新しい学力観の中で問われている「問題解決能力」や、その問題解決がなぜ正しいかを説明するための「表現力」や「論理力」に必要な、幅広い知識は「読書」の中で長い時間をかけて培われるものです。この本の中の教室の子供達は1年間に40冊を読むそうです。カイチでもバスカルキッズでは読書指導を取り入れています。自主的に読む子は少ないのが現状です。もっと工夫して、子供達を読書好きにしていきたいと思えます。





## CLASSROOM REPORT 教室レポート

## 諸口教室の3つの変化

坪田 陽一（諸口教室）

諸口教室の坪田です。

この3月～4月にかけて、諸口教室では3つほど変化がありました。

1つ目は、当然ですが新しい生徒が増えたこと。3～4月中に珠算生から中学生まで、計50名ほど入塾されました。特に中学生が増えて、クラスによっては教室がほぼ満席で机が足りなくなるほど。学力や目標は様々ですが、共通しているのは「勉強したい!」「自分を変えたい!」という熱い思い。それが他の生徒達にも伝わっているのか、とにかく中学生全員がよく勉強しています。

なお、教室で目につくのが、高木直也先生作の様々な順位表。以前の記事で高木先生も書いていましたが、点数と、下に一言メッセージが添えられていて、常に人だかりができています。喜んでいる子、悔しがっている子と色々ですが、みんな不思議と表情は明るかったりします。やはり子供は競い合うことが好

きなのだと感じます。また、たとえマイペースに見えるお子様であっても、心の内では「もっとこうなりたい」という目標は持っているはず。この原稿を書いている時点では中間テスト対策が始まったばかりですが、生徒の皆さんの努力が報われ、目標に到達できるよう、私たちも一生懸命サポートします。

2つ目は、事務室の大掃除をしたこと。塾長や須田先生、本部の事務の先生方の手をお借りして、古い書類を捨てたり、備品や書類の置き場所を整理したり、配線コードを束ねたりと、かなりきれいにしていただき、おかげさまで仕事がしやすい環境になりました。生徒には常日頃「整理整頓」を言っているにもかかわらず、自分たちがあまりできていなかったのは、本当にお恥ずかしい話です。今後は日々この状態をキープしていきたいと思えます。

最後の3つ目は、3月から教室長が変わったこと。入塾説明会や入試説明会ではお話ししましたが、この教室を立ち上げたときからずっと先頭に立っていた小田先生に代わって、私坪田が新しく教室長となりました。とはいえ、私も教室の旗揚げ2年目から講師や副教室長の立場で諸口一筋!でやってきましたし、また小田先生も珠算や中学生のクラスには授業に入りますので、何かが大きく変わるという訳ではありません。厳しいけれどどこかアットホームな、そんな教室の雰囲気は残しつつ、さらに地域の皆様に愛されるような塾をつくりあげていきたいと思えます。

他にも、新顔の先生として、中学部には山本先生や井上先生、個別指導には安積先生が登場しました。いずれも個性的で熱心な先生方です。生徒の皆さんはどんどん話しかけ、たくさん質問してくださいね。



# Education



KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育

## 春の遠足に行ってきました

熊谷 周作 (関目教室)



4月26日に168名の生徒達と一緒に、バンドー神戸青少年科学館に遠足に行ってきました。

バンドー神戸青少年科学館は、3年前にも遠足で1度行った場所ですが、中の展示が大きく変わり、何度足を運んでも楽しめる空間です。個人的に楽しかったのはプラネタリウム。日頃の疲れがたまっているのか明かりが消えると同時に眠ってしまった先生もいるようですが(笑)、やはり星の世界は神秘的です。ナレーターの方の説明に対し、「わー」と歓声があがったり、指さして星座を確認したり、みんな興味津々で聞いていました。

班ごとのオリエンテーリングでは、スタンプラリーを兼ねて行いましたが、みんな

スタンプ集めにすごい勢い。カイチ生は肉食系です。教科書の理科実験の大半が体験できる展示室は見てくれたかな？

青少年科学館を後にして、公園で昼食。みんな朝早くからお家の人に作ってもらったお弁当を自慢げにおいしそうに食べていました。みんなのお弁当は、おにぎりが顔やサッカーボールになっていたり、お楽しみのゼリーが入っていたり。見ている私にまで、お家の人々の愛情が伝わってきました。(もちろん、先生の奥さんの愛情弁当も負けてませんでしたよ！)

お弁当の後はドッジボールと大縄大会などのレクリエーション。先生がとにかく驚いたのは、今福教室の女子のドッジボールの上

手さ。大人以上の球の速さ。そして本気ぶり。「今の子は元気がない!」などという方は一度、子供達と外で遊んでください。元気すぎる。すごいエネルギーです。先生たちはドッジボールでコテンパンにされ、日陰に休憩に行くと、鬼ごっこに誘われる。ただの鬼ごっこなのに、子供達は全力で走り回る。逃げるように大縄へ。飽きることなく跳ぶ子供達。どうも、先生の縄のさばきは悪かったようです。そして、帰りのバス…。さっきまで元気だった子供達はスヤスヤ眠ってしまいました。すごいONとOFF。私も、彼等の自由な「子供力」がうらやましくなりました。

## COLUMN: 先生紹介 ▶ 川西 正晃 先生(今福教室)

はじめまして、今年の春より今福教室でチューターをしている川西正晃です。

たまに生徒に質問されますが、川西久志先生の弟ではありません(笑)。

今は先生としてカイチにいますが、元々はカイチの生徒でした。今日はそんな、昔話を少しさせてもらおうかなと思います。

小学1年生の頃、母親に「あんた、そろばんやれば?」と言われて「そろばんせんでも、俺、計算得意やで」と答えたら、「得意やからこそ、やったらええやん」と返され、すぐにカイチに行く事を決めました。泳げなくてプール教室に通わされていたあの頃の自分にとって、「得意な事を習う」というのは意外で、今でもこのやりとりは鮮明に覚えています。ここからカイチに通う生活が始まりました。

そろばんの思い出は、稽古後に先生が売ってくれる駄菓子、夏休みのピンゴ大会で節分の豆のごとく降りかかる鮎、クリスマス会の

ゲームでだるま落としに必死な塾長・・・こんなことばかりが記憶に残ってます(笑)。これだけ見たら、本当にそろばんをやっていたのか?と思われそうですね(笑)。

中学になると、やはり楽しい事ばかりではなかったです。学校の定期テストがあり、それに向けて、3時間自習…部活の両立に苦労したのもよく覚えています。

それでも続けられたのは、授業中に話が脱線して、いきなり行われる先生のすべらない話だったり、「最近学校どうや?」「それがなあ〜」から生徒と先生の本音が漏れる話のできる、居残り後の雰囲気を楽しめたからだだと思います。

こんな風に、そろばんも塾もしんどい事ばかりではなくて、気分転換できる時があるから、僕は9年間も続けることができたのだと思います。



居残りといえば、僕はたまに、数学で残っていた友達に「ここ、どうやって解くん?」「ああ、そこはなー」と教えることがありました。その時「お前の教え方、よう分かったわ」と言われたのが嬉しくて、それがいつか人に教える仕事をしたいと思ったきっかけになりました。

カイチでは先生ですが、大学1年生。みんなと同じ“学生”です。

先生としてもまだまだ未熟ですが、一生懸命、指導をしていきたいと思っています。

みなさんよろしくお祈りします!

熊谷の **イイ話**

## TEACHER'S VOICE

熊谷 真宏 先生(今福教室)

## バスカルキッズの子ども達

早いもので、私がカイチに入社してから丸3年が経ちました。今回は、この3年間で特に私を成長させてくれた、ある子供達を紹介したいと思います。

小さい頃からいつも一緒に、年長さんの時に二人同時にバスカルキッズを始めました。そして二人とも私が担当することになったのですが…この頃はとにかく二人ともやんちゃで、じっと座っていることもままならず、おまけに隣の子のことが気になって全く集中しない。今でこそ幼稚園の子は最初はそんなものだろうと思えるのですが、当時まだ入社2ヶ月で、本気で叱ることにまだ慣れていない私にとっ

ては、とてつもなく大きなハードルでした。

どうすれば二人の集中力を引き出せるか、試行錯誤の日々でした。

そして、ようやくある方法を思い付きます。とにかく二人の良いところを探して、たくさん褒めるという方法です。負けず嫌いの二人の性格を活かして、褒めることでお互いのハートに火をつけ、切磋琢磨できる状態にしました。人はどうしても悪いところばかりが目についてしまいがちだが、それを指摘して叱っても、絶対にやる気は起きない。一番大切なのは、やはり褒めることだ。以前塾長からいただいたアドバイスの意味が、このときようやく分かった気がしました。



今でも相変わらずのやんちゃ振りですが、二人ともそれぞれの個性を持ったまま、とてもたくましく成長してくれました。私はこの二人から、一人一人の個性を尊重しながら可能性を引き出す方法を学びました。これからも、さらにこの指導に磨きをかけながら日々向上心を持って頑張りたいと思います。

カイチからの  
お知らせ

- 6月9日(火)・13日(土)は期末模擬テストです。予想問題でしっかり学習しておきましょう。
- 6月20日(土)・27日(土)は中学生対象で9時間自習を13時~22時で行います。定期テストまで最後の追い込み、みんなで頑張りましょう。
- 6月27日(土)は珠算上級検定の直前練習です。時間は各教室内で告知します。
- 6月28日(日)は珠算上級検定です。合格目指して、しっかり練習しよう!